

明けましておめでとうございます 同盟県本部結成三十五周年の年明け



結成初期に活動した人々ー治安維持法賠償同盟山形支部第4回総会にて(1990.8.5)〈写真「不屈」合本第1号より転載〉
「同盟県本部はこうして誕生した」(7頁参照)



「不屈」No. 571付録
山形県版 No. 389
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
山形県本部
〒994-0073
天童市寺津263
瀬野幸男方
TEL. FAX.
023-654-3255

私の糧かて

渡辺ゆり子

九条Tシャツの腕をまくり
九条せんべいをかじっていたら
ハッと気がついた。

私は生まれてこのかた六十年以上も

九条を着て、食べて、生きてきたのだ。

空気のような、水のような

私を包む私の糧

父の肩車ではしゃいだ祭りの子どもは

降りそそぐ陽を浴び、季節の風を呼吸して

大きくなってきた。

めぐる時の中で浮かんでは消える涙や笑顔

あたりまえは日常のなつかしさ

そうして行く場所も行動も

決められる明日を持つことの当然さ

誰が何と言おうと

この血肉化した私の糧を手離すまい

足踏みしめて 生きてやろう

(県議会議員)

明けましておめでとうございませ

未来を切り開く

県本部会長代行 白根沢澄子

今年にはトラ年です。トラが入ったことわざに「苛政は虎よりも猛し」があります。悪政は人を食い殺す虎よりも恐ろしい、ということのたとえです。戦前の日本がそうだったと言えらるかもしれない。そして、今また戦前の日本につながるような悪政に向かう危険性が出てきました。岸田文雄政権が昨年の総選挙の結果を受けて、9条改憲と軍事力強化を加速させています。自民党は国会の憲法審査会に、9条に自衛隊を書き込むなど改憲4項目の議論を提案しました。明文改憲とともに解釈改憲にも踏み出しています。岸田首相

一歩でも二歩でも進まなければ

山形支部事務局長 鈴木正晃

一昨年、昨年と新型コロナウイルスの世界的流行に見舞われ、支部活動もほぼ閉店状態が続きました。加えて、支部活動の要であります高橋支部長が怪我のため長期入院となり、大きな

表明の敵基地攻撃能力の保有の検討は、歴代政権が違憲としていたものであり、立憲主義に反し憲法をなした崩壊するものです。

今年が戦前回帰のターニングポイントだったと評されるような年にしていないために、私たち国賠同盟は戦争する国にはさせないという強い覚悟をもって取り組みをすることが必要です。「憲法改悪を許さない全国署名」を集め、7月の参院選で平和・民主主義を守る議員を多数派にするために力を尽くしたいと思います。

会員のみなさん、健康に留意し、国賠同盟の活動は未来を切り開き、未来につながる活動であることに確信をもって運動を進めましょう。

打撃となりました。幸い、経過も悪くなく、快方に向かっているようですのでほっとしているところです。

新年を迎えましたが、コロナ禍が依然として猛威をふるっており出口が全く見えません。こうした国民の生活や命が危うい中で、岸田自公政

権は「ふたたび戦争する国づくり」に突き進むとうとしております。改めて国賠同盟の運動の基本を再確認し、支部活動に取り組み必要があるのではないのでしょうか。

残念ながら、山形支部も会員の高齢化に伴って組織自体が大幅に縮小しており、同時に役員体制も弱体化しつつあります。

今後、県本部の指導や援助をいただきながら、又、他支部の活動や教訓に学びながら、一歩でも二歩でも前に進まなければと思っているところです。宜しく願います。

逆転の市長選、

同盟活動も終盤へダッシュ

鶴岡田川支部長 戸村昌也

昨年は、前年に続いてコロナのため各支部は集会なども思ったようにできなかったと思います。

我が支部も国賠法の活動はほとんどできず、選挙が三つ、市長選、市議選、衆議院選があったので、会員はそれぞれの選挙に積極的にかかりました。

欠です。

今年、役員だけでなく、会員、会員以外も参加できる学習の場を作りたいと思います。そして、改憲を絶対許さない署名運動、参院選での勝利、伊藤千代子の映画運動、村山俊太郎・ひでの顕彰碑建設など同盟内外の人々と力を合わせ、「戦争か平和か」の歴史的節目を迎えた2022年を頑張り抜き、一回り大きな支部組織にしたいと決意しているところです。

新年にあたって

米沢支部長 鈴木淳子

コロナ禍2年目の夏。オリンピック、パラリンピックが強行されました。期間中、コロナ感染は拡大し続け、受け入れ先が見つからないまま中等症と診断された妊婦が自宅で出産し赤ちゃんが死亡するという痛ましい出来事がありました。救急搬送されながら受け入れ先が見つからないうまま亡くなった人々や自宅で亡くなった人々もいました。マスコミからは、感染者数の報道はあるもの

学習が不可欠

天童支部長 瀬戸山京子

10倍の署名と多くのカンパが寄せられたことです。なかには知り合いを訪ね5筆集めてくれた方が数人おりました。

昨年の抱負の中で菅首相の怖さを書きましたが、後を引き継いだ岸田首相は菅に輪をかけて恐ろしい人物ですね。敵基地攻撃を公然と掲げています。今年の参院選が憲法改悪許さないうえでも、まさに正念場のたかひになりませぬ。国賠同盟もがんばらなければとの思いを新たにしています。

コロナ禍で動けないこともありませんが、目の前の課題に追われ、同盟の活動は後回しになってしまっています。先日、役員会で『治安維持法と現代』の活動は後回しになってしまっています。秋月号で千葉県本部会長小松実氏の講演「現在の情勢と同盟の役割について」学習しました。わかっているつもりでも、改めて同盟活動の意義を深めることができました。やはり、同盟の活動には意識的な学習が不可

二つのうれしい事

酒田支部長 長谷川 肇

昨年酒田支部には二つのうれしい事がありました。一つは、私が支部長になって初めて支部委員1名をふやすことができたことです。十何年ぶりかな？これを力にさらなる役員体制強化に努めたいと思います。

もう一つは終戦記念日のチラシの裏面に署名用紙を印刷し赤旗日曜版に折り込んだところ、前年の5倍・

特に二期目を目指す市民派市長に

対して、保守派候補側のすさまじい攻撃を跳ね返して、開票の結果一〇票差で逆転勝利しました。また、市議選も五人の候補者はそれぞれ票を増やしましたが、四人の当選となりました。衆議院選挙は圧倒的差で保守派が制しました。

国賠法の活動ではありませんが、鶴岡市榊引出身の言語学者斎藤秀一の演劇公演があつて多くの市民が観劇しました。遅れている同盟活動、目標達成に向けて最後まで頑張りま

それ以上の勢いで、日本選手団の活躍がメダルラッシュという言葉とともに流されました。私はこの夏を忘れません。

一方で、同盟では、映画「伊藤千代子の青春」の製作協力券の普及に取り組んでいました。大方の人たちにとっては全く無名の伊藤千代子の映画製作に協力してもらったために、戦前の伊藤千代子と今の私たちの何を重ねたいのかが見えてきたような気持ちがあります。

去年も書きましたが、作家井上ひさしが「記憶せよ、抗議せよ、そして、生き延びよ」と語ったように、新しく始まるこの一年、国賠同盟の活動をすすめていきたいと思えます。

参院選の年、心して立向かわなければ

上山支部理事 菊池 喜英

戦争とは、仕掛けられ、動機がつけられる。それは、資本主義の矛盾が膨らみ解決困難な時。安倍・菅政治の新自由主義経済で、資本家大企業の優遇の結果、教育は企業戦士育

成の為と化し、正規の社員は一部。あとは派遣、フリーター、青年たちを貧しくし結婚もできない。結果少子化である。小学校の統廃合は政治的合理化であるが、全国では二〇〇超の統廃合が進められる。おらだの学校二郷一もそのひとつである。今年も米価が六〇キロ一万円を下った。昔国民の総貧困は戦争への道であった。福祉を削って軍事費増額。今、コロナ禍もあって、学生・青年の困窮、総貧困と呼ぶ時代。

中央常任理事会の報告の中に、事務局長方針提案では「新たな戦時体制形成の段階に入った岸田政権」とある。細川政権でも、安倍政権でも何度もくり返されてきた金の亡者どもの軍事費増額。参院選の年、心して立ち向かわなければならぬ。

活動停滞をどう克服するか

西村山支部事務局 佐藤 哲

昨年コロナ禍の下、活動が制約された1年でしたが、西村山支部ではそれ以外にも会員の老化が進み、健康上の理由により支部活動に結集

できない会員も出てくるなど、活動は大幅に停滞してしまいました。その中でも、月1回の役員会（事務局会議）はこの間、3ヶ月続けて開催できており、個人署名や団体署名も細々とですが前進しております。活動を飛躍させるには会員拡大しかないのは分かっているのですが、憲法改悪が企まれる今年、悩ましい1年の幕開けです。共に頑張りましょう！

再び「敵基地攻撃」の危機

北村山支部長 大場 總

1934(昭9)年に生まれた私達は、41(昭16)年「国民学校」という学制改革をともに受けた世代。41年4月に国民学校第一回入学、47年修了、この間太平洋戦争の遂行に協力する皇国の「小国民」として軍国主義教育を受けた年代である。45(昭20)年敗戦、48(昭23)年からの新制中学第一回入学生も私達である。最大の歴史的混乱の時代を経験している。戦争による2000万人の犠牲の上に、戦争反対・主権在民・民主主

義・男女平等など掲げ命を賭けてたかった先人たちの行動が現実となった。この過程を経て現在の平和憲法が存在すること、「新しい憲法のはなし」として、明るい生活を実感し、明るい未来を希求したものである。

しかし、戦後77年を迎えた今、憲法違反の「安保法制」から「敵基地攻撃」なることが国会の場に登場する事態になっている。平和憲法は「全世界の友好のもと敵はない」とする「人類の恒久の平和」を願った崇高なものである。この憲法をないがしろにし、再び戦争を企てる保守反動を許してはならない。今年、憲法改悪議員が3分の2を占める国会勢力を、減ずるための行動をなす正念場となっている。

会員一致団結して前へ

東置賜支部事務局次長 佐々木 忠男

昨年は野党協力のもとでの衆院選に全力をあげてたたかっていたが、残念ながら負けてしまいました。支部活動においても活力を欠けている状態でした。

今年、総会で決定した署名や会員拡大の目標達成に向けて全力をあげます。また、四月に高島町長選があり、同盟会員の二名の町議を中心に活動する予定です。昨年十二月末に平田支部長が病にたおれました。一日も早く回復を祈っているところです。一月中に支部役員会を開き、会員一致団結して前に進むように頑張りたいと思えます。

「危険だ！」の声を大きく

西置賜支部長 青木 慶一

総選挙で改憲勢力が、三分の二を越す議席を得た。これを受け、岸田総理はタカ派に「豹変」した。アジアの現状(台湾有事)米中対立、北朝鮮(を見れば)、日本にも「敵基地攻撃能力」が必要と言いつつ、補正予算にも異常に高額な軍備費を計上した。さらに九条に狙いを定めて、改憲を進めると宣言した。

「市民と野党の共闘」で、総選挙を戦った市民の各組織は、これに反対の声を大きく上げることになろう。その時、安倍政権の安保法制(戦争法)、

特定秘密保護法(軍機保護法・国防保安法再現)、菅政権の重要土地規制法(要塞地帯法再現)の発動が現実味を帯びて、私たち市民に迫ってくる。治安維持法を中核とする人権抑圧の体制下で、何が起きたかを調べて、周知しようとする国賠同盟運動の真価が、正に問われる時にきた。「危険だ！」の声を大きく上げたい。

継続は力―支部版「不屈」を

発行続けて

鶴岡支部 須田 正和

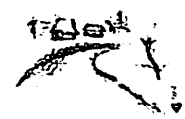
中央・県版と一緒に配布している「不屈」の支部版が昨年12月で287号の発行になりました。私が支部版発行を担当し始めたのは4年前です。前年、前任の方々の約20年間の継続を経て今に繋がってきていることになりす。一号から綴ってあるファイルを見ると、その努力の跡がよく分かります。

支部版は、会員の皆さんに現在の支部の活動状況や今後の動きなどを知ってもらうために必要かと思えます。その中で、情報を共有しながら協力

（国会請願の署名など）を提示してお願いしています。内容的には、治安維持法の犠牲者に関わる記事を重点的に載せています。例えば伊藤千代子の生涯やその映画関係の情報や今後の上映予定の取り組み、齋藤秀一の朗読劇の情報などを取り上げました。国賠同盟の会員でなくとも、犠牲者の生涯等をたどっていくことから治安維持法の酷さが解ってきて、国の謝罪や賠償にまで繋がっていき易いのではないかと思います。

紙面を充実させるにはまだまだ課題があります。記事をいろいろの方から書いてもらったり、イベント等の参加の様子を取材したりする等多方面の情報を載せられると良いのですが、なかなかそこまで手が回りません。

「継続は力なり」と言われていますが、今まで続けてきたことを引き継いで、これからも発行し続けていきたいと思えます。



女性部だより

昨年は、一昨年の同時期に比べて、コロナのワクチン接種が進んだものの、例年実施されてきた全国女性交流集会在2年続けて中止になりました。

12月初め、北村山、東置賜、米沢の女性部役員で1年ぶりの顔合わせをし、各地区の動きや近況を交流しました。

各地区とも、映画「伊藤千代子の生涯」の製作協力券の普及、総選挙での野党共闘への支援など行ったけれど、女性独自の集まりや動きは出来なかつたと、この2年が報告されました。

また、2019年まで、全国女性交流集会の報告会を兼ねて県の女性部総会を行ってきましたが、今年度もこれから降雪の時期になり、この状況で総会は難しいということ、女性部だよりで、女性部の方針をお知らせし、確認することにしました。基本として次にあげる今までの方針を堅持しながら、またこの1年を頑張っていきたいと思えますので、み

なさんよろしく願います。

【女性部の方針】

(1) 顕彰活動について、2020年6月に那須でつさんの妹・伊藤てるさんがお亡くなりになった。お二人を取り上げながらゆかりの地をめぐる、可能ならば夏ごろに山形の生家や農民組合をめぐる顕彰ツアーを実施したい。

(2) 会員拡大は、若い人たちの接点をどう作るかが課題だが、映像を使って、しゃべりあう形だといろいろな人に声をかけやすい。つながりを見つけていく工夫をしながら、機会をつくって活動への同意を広げたい。

(3) 他の女性団体との共同は、2021年も山形県母親大会が中止になるなどあつたが、引き続き協力続ける。

(4) 全国女性交流集会には、引き続き3名の参加者を派遣する。

(5) 女性部は各地区支部に女性部結成を目指す。難しい支部では何人かの女性が女性の視点で話し合える場を作ることを目指す。

同盟山形県本部はこうして誕生した

— 結成当時の意気込みを引き継ぐ —

維持法同盟支部の結成と

鈴木善治さん① 菊地栄(初代事務局長—編集者)

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟山形県本部は、山形県支部として1987年7月21日に結成されました。(1995年、第9回山形県支部総会で山形県本部と名称を変更)同盟結成の発起人の一人である鈴木善治さんが、結成から二年半後の89年12月10日に急逝されました。満70歳。

「不屈」県版20号(九十年三月十五日)は、「特集 故鈴木善治氏を偲ぶ」を組みます。初代事務局長の菊地栄さんは、同盟山形支部(本部)誕生の経過を述べ、鈴木善治さんの業績を偲びます。

今、全国では6月に開催される第40回全国大会に向けて2万人同盟を建設しようと猛奮闘しています。それに呼応して山形県は400人の会員達成をめざしています。同盟山形支部結成に向けて、会員拡大に奮闘した先輩方の情熱と取り組みを学びたいと思い「不屈」20号から菊地栄さんの文を転載します。是非、お読みください。

それは一斉地方選挙を前にしてあわただしさを増していた一九八七(昭和六十二年)三月二十四日、夜中に強い雨が降り続いた日の事であった。

山形民商会館に用があつて行ったら、たまたま鈴木会長(当時山形民商)と柴崎副会長(当時)が、話し合っておられ、誘われて私もなかに入ったのですが、その帰りぎわ、会長が私に、さりげなく、「戦前弾圧を受けた人々の全国組織があるんだが、その連絡所になつてもらえないだろうか。」という。月一回「不屈」という機関紙が発行されていますが、それを会員さんに発送する仕事なので、大したことはないということでした。

病氣の方も落ち着いてきていたし、何もしていないことが心苦しくも思っ

ていましたので、それ位のことだったらと、深く考えもせず承諾しました。正直言って、治安維持法同盟という団体については何も知っていませんでした。

(二)

五月二十四、二十五日。治安維持法同盟第十九回全国大会が、京都市教育文化センターで開かれ、山形では私が初めての参加でした。

大会に臨んで先ず感じたことは、役員の方や参加者の多くの人が、七十才、八十才の高齢者なのに、あの天皇制の暗黒政治の下で不屈に闘い抜かれた諸先輩の方々のなんとたくしやくとした言動です。そして悔いなく生きてこられた人々の明るさ、清純さに強く胸を打たれました。

討論は、各地の困難ななかでの活動報告が続き、圧倒されました。改めて「いままぜ治維持法同盟か」の意味が全身に沁み込んでゆき受けとめられていったのです。よし、山形にも支部をつくらうと、決意が固まつてゆきました。

山形に帰って早速、鈴木先生を訪ねて報告しました。教育運動を一貫して続けてこられた先生は、戦中の北方性教育についても明るく、治安維持法犠牲者も教育労働者が多く、先生の知人の層も広がったので、「すぐ段取りをして具体的にすすめよう。」と話がまとまりました。

県支部結成にあたっては何といても村山ひで先生を中心に座つてもらわねばと電話で相談をしました。ところが「東根の市議選応援でしばらく離れられないから、あなたがたにおまかせする。」ということだったので、そんなわけで鈴木先生と二人で連日のように打合せながら計画をすすめました。県支部結成総会を七月二十一日に設定、それに向けて手ぬかりのないように一歩一歩すすめていきました。

(三)

この組織は、全県を網羅したものでなければならぬ。そのためには、なんとしても日本共産党の力を借り

なければなりません。丁度、六月二十八日、県党会議が開かれることになっていました。ここで治安維持法同盟を組織する意義を訴えることが結成の成否を左右する当面のカギであると考えました。そこで県委員会を訪ねて今泉書記長にお願ひしました。発言の時間をとってくださることと資料の持込みを許してもらおうことをあらかじめ約束してもらったのです。(つづく)

映画「わが青春つきるとも」

ついに完成

各地域の実行委員会

上映運動を具体的にすすめよう

映画は1月に完成、4月中旬から全国で上映が開始されます。6月までを第一次上映運動、参院選後第二次上映運動を設定。地域の上映実行委員会に積極的に参加し、千代子と国賠同盟を知らせる機会、そして若者をつなげる契機として上映会を成功させていきましょう。

「改革への全国署名」・「国賠同盟」・「国賠拡大」目標達成に向けダッシュ!

2021年 12月の支部ごとの到達点 2021/12/31現在

支部	山形	鶴岡田川	酒田	天童	米沢	上山	西村山	北村山	東園陽	西園陽	新庄	県本部計	
個人署名	目標	2000	1200	1300	500	1000	200	800	500	1000	600	—	10000
	到達	263	483	150	230	70	60	50	62	40	27	—	1435
団体署名	目標	50	65	80	20	30	5	70	20	50	10	0	400
	到達	7	32	2	6	6	0	10	3	0	4	0	70
会員	目標	95	60	60	25	25	10	42	20	35	20	—	400
	到達	82	55	50	20	23	6	38	17	31	15	7	344